# 038 写真で見る熊本地震

◀前震時に警防隊の待機していた事務室。
ガラスが散乱し危険であった。

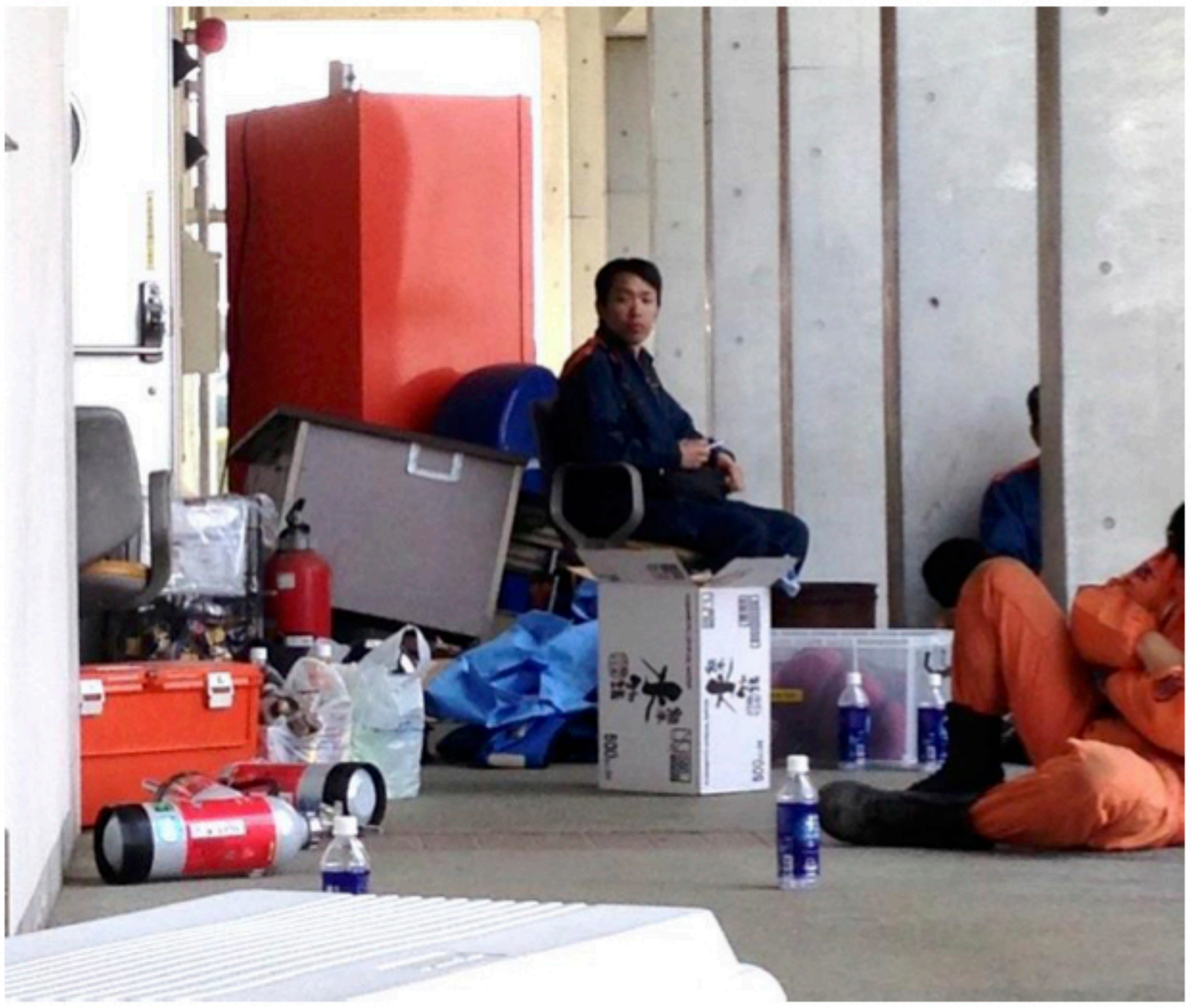
▶二階事務室。
PC等のデータ端末は破損や停電により使用できなかった。紙ベースでの情報管理の大切さに気付かされた。

◀更衣室。
参集した隊員は活動服や着替えを出すことが難しい状況だった。

▶車庫前の側溝。
前震発生直後、地盤がずれて溝が広がり、車両が車庫から出せない状況だった。咄嗟に外れたグレーチングで橋を作り、全ての車両を車庫前に出した。

◀車庫。
事務室が使用できなかったため、車庫を本部として活動した。

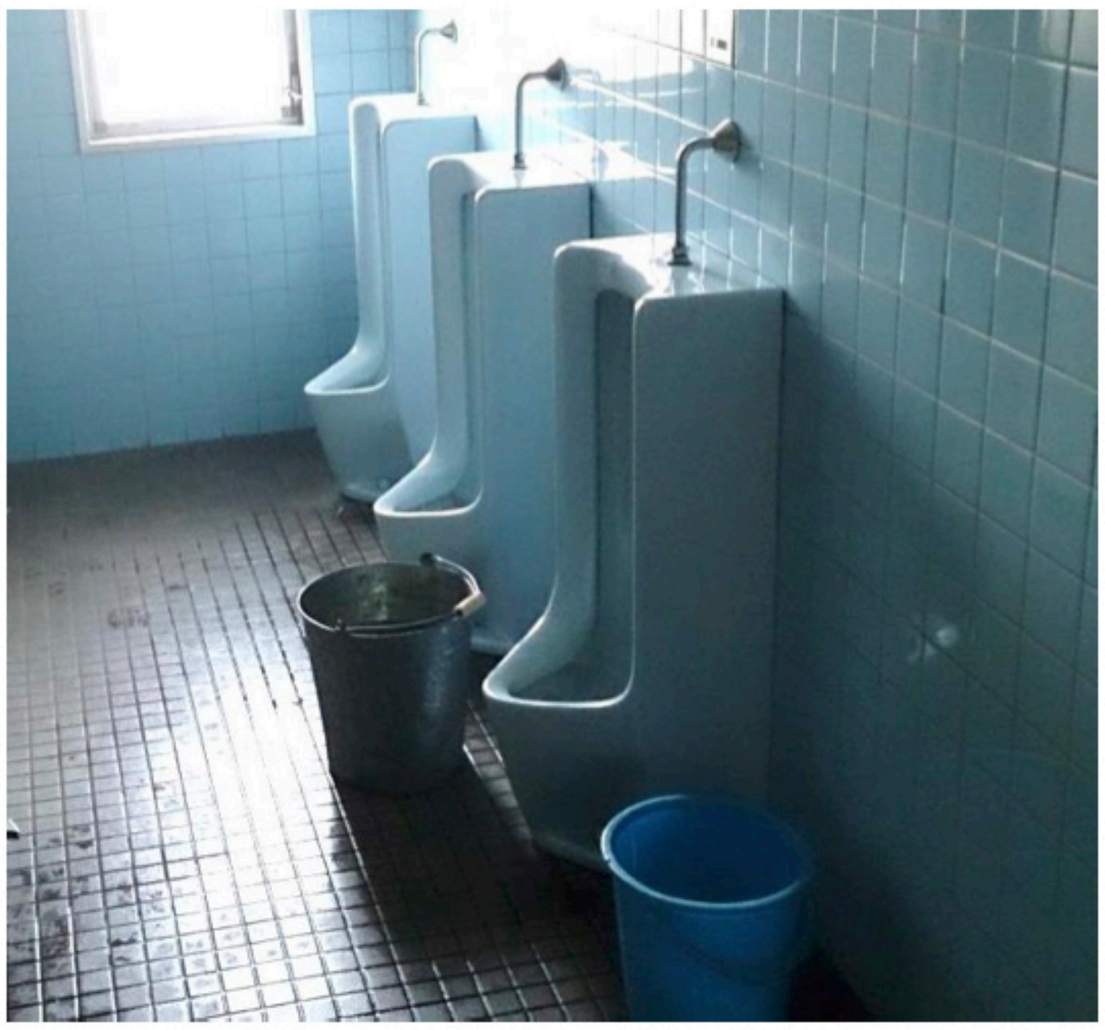
▶管内地図。
非常災害時には、大きな一枚の地図が大変役に立った。
通行止めや地区ごとの被害状況がひと目でわかった。



▼事務室前ピロティ。
屋内に休めるスペースは無く、大きい余震も続き危険であったため、隊員たちは屋外で待機した。

▶エアーテント。
大きな余震が繰り返していたため、庁舎で仮眠を取るのも危険であると考え、ＮＢＣ災害用の除染テント等を設定し、クッションや寝袋を使って休憩をとった。

◀トイレ。
益城西原署は地震発生から1ヶ月に渡って断水したため、トイレはバケツでタンクに水を入れて使用した。水はタンク車で東消防署など水の出る所まで汲みに行って補充した。



◀生活用水
トイレには簡易防火水槽に貯めた水を使用したが、食器洗いや手洗いには、農業用ローリータンクに綺麗な水を汲み、蛇口付きポリタンクに移して少しずつ使用した。

◀広崎(秋津川沿い)
道が地割れを起こしている。川岸が沈下しているため、川の氾濫が懸念された。

▶福富(東熊本病院)
玄関先のコンクリートに大きな地割れが起こっていた。

◀惣領(惣領交差点南側)
家も車も両方被害に遭っていることも少なくなかった。車中泊や、隣町などへ物資を調達しに行くなど、車一台の存在はとても重要だった。

▶馬水(鉄砂川)
川の両岸とも崩落し、ガードレールは波打っていた。

◀安永(県道熊本高森線沿い)
県道沿いは特に倒壊が激しく、目標物にしていた建物もたくさん倒壊した。

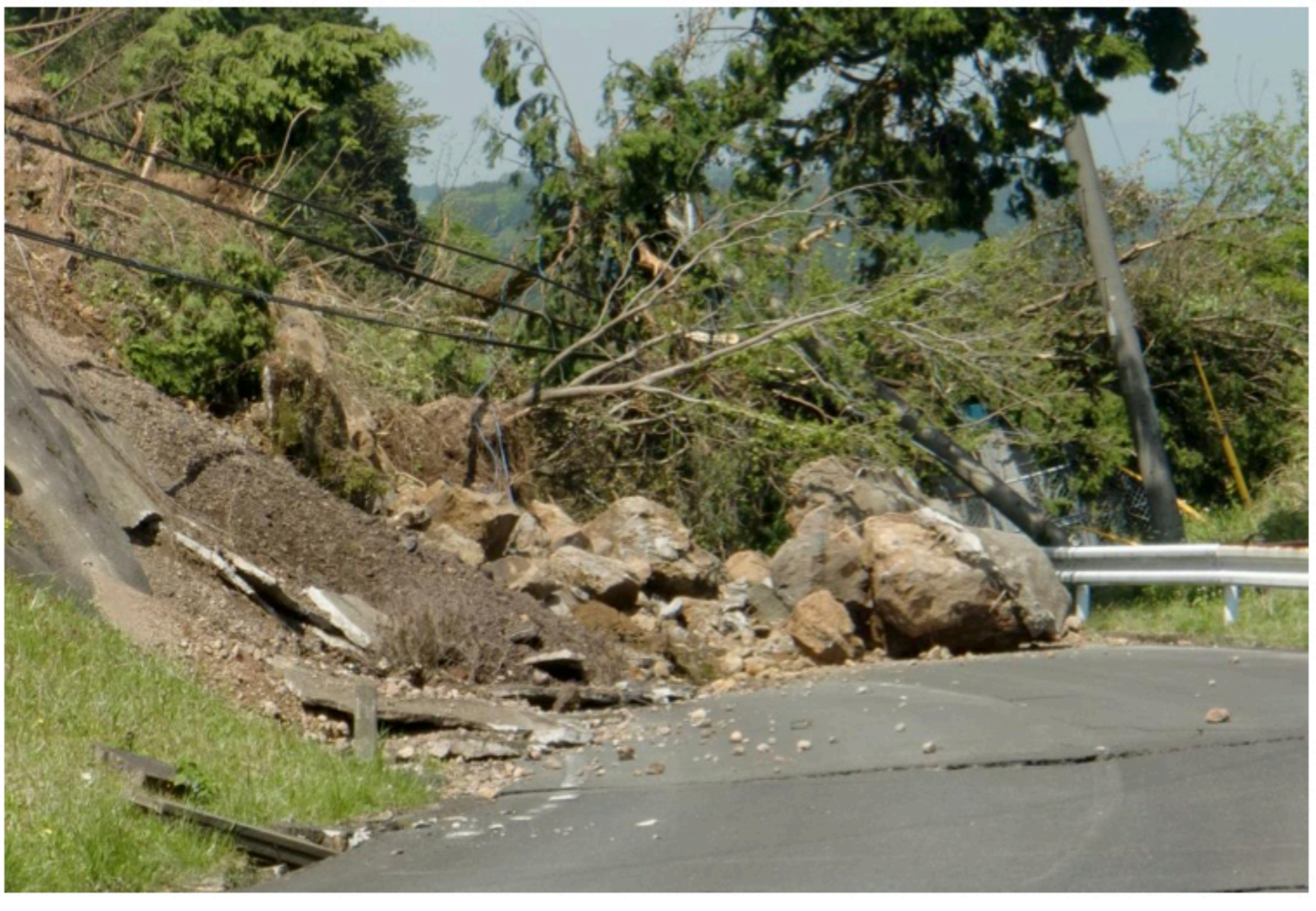
▶安永(県道熊本高森線沿い)
道側に傾くように倒れている建物もあり、二次災害の危険性が高かった。

◀木山(県道熊本高森線沿い)
古い建物が多かったこともあり、県道沿いの建物は倒壊するものが多かった。特に木山の交差点付近は建物が道側に倒壊しており、車両は通行出来ない状況だった。

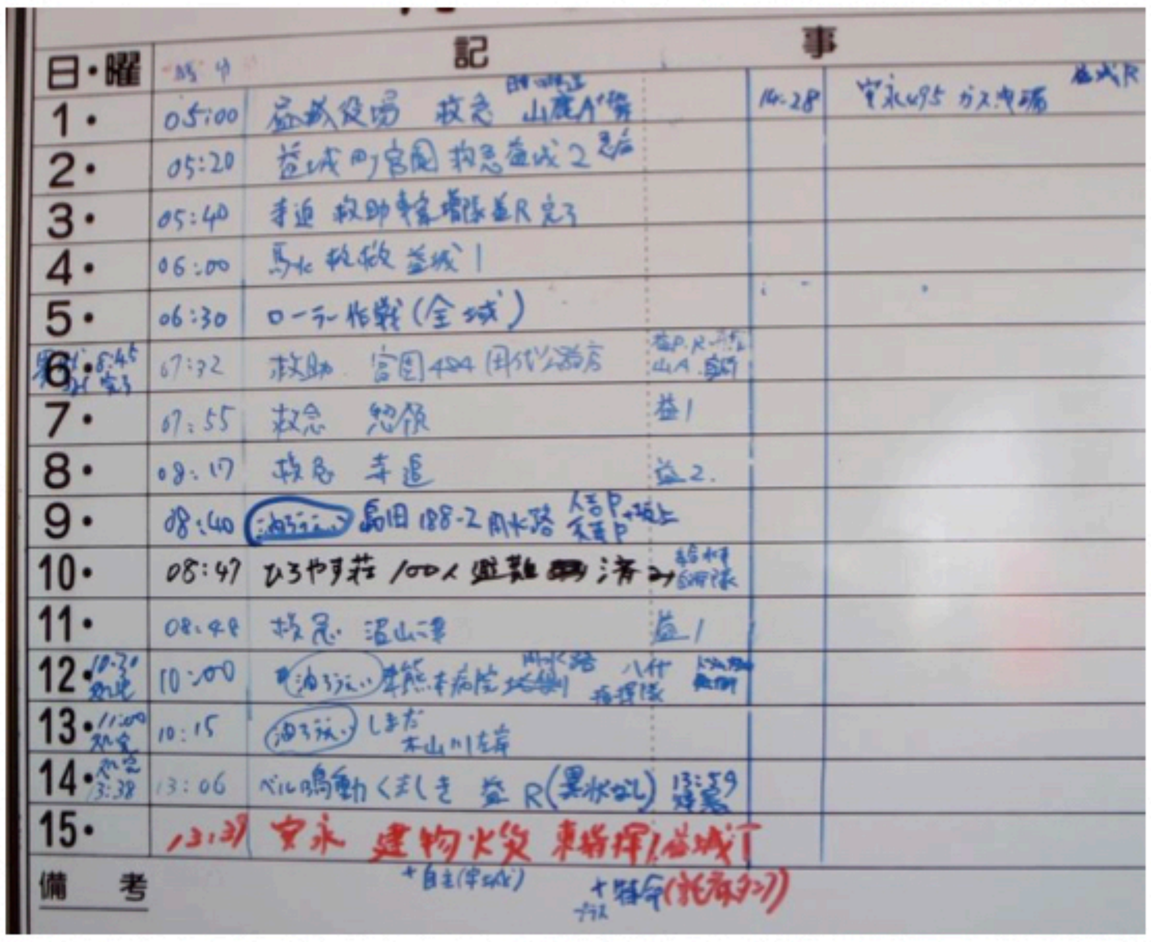
▶寺迫(寺迫交差点)
前震直後に大規模な陥没が発生した寺迫交差点。付近に迂回路が無く、発災直後は渋滞が発生したが、すぐに復旧作業が開始され、数日で舗装され、警察による交通整理が行われた。

◀西原村（県道熊本高森線）
大切畑大橋から俵山トンネルにかけて、橋や道路の損壊により通行不能になった。
益城西原消防署管内のほとんどの橋は段差が発生してすぐには通れない状況だった。

◀西原村（大切畑ダム）
大切畑のダムは地震による亀裂で漏水し、大量の水が鳥子川へと流れた。ダム決壊の恐れもあったことから、大切畑地区および鳥子地区の住民は避難を余儀なくされた。



◀西原村
山間の道路は崖崩れによって通行止めが多数発生した。




◀ホワイトボード

非常災害により通常の指令ではなく地区隊運用となったため、事案をホワイトボードに書き込み、出場中の車両や各隊の活動状況を把握した。

▶車輪止めを乗り越えた車両

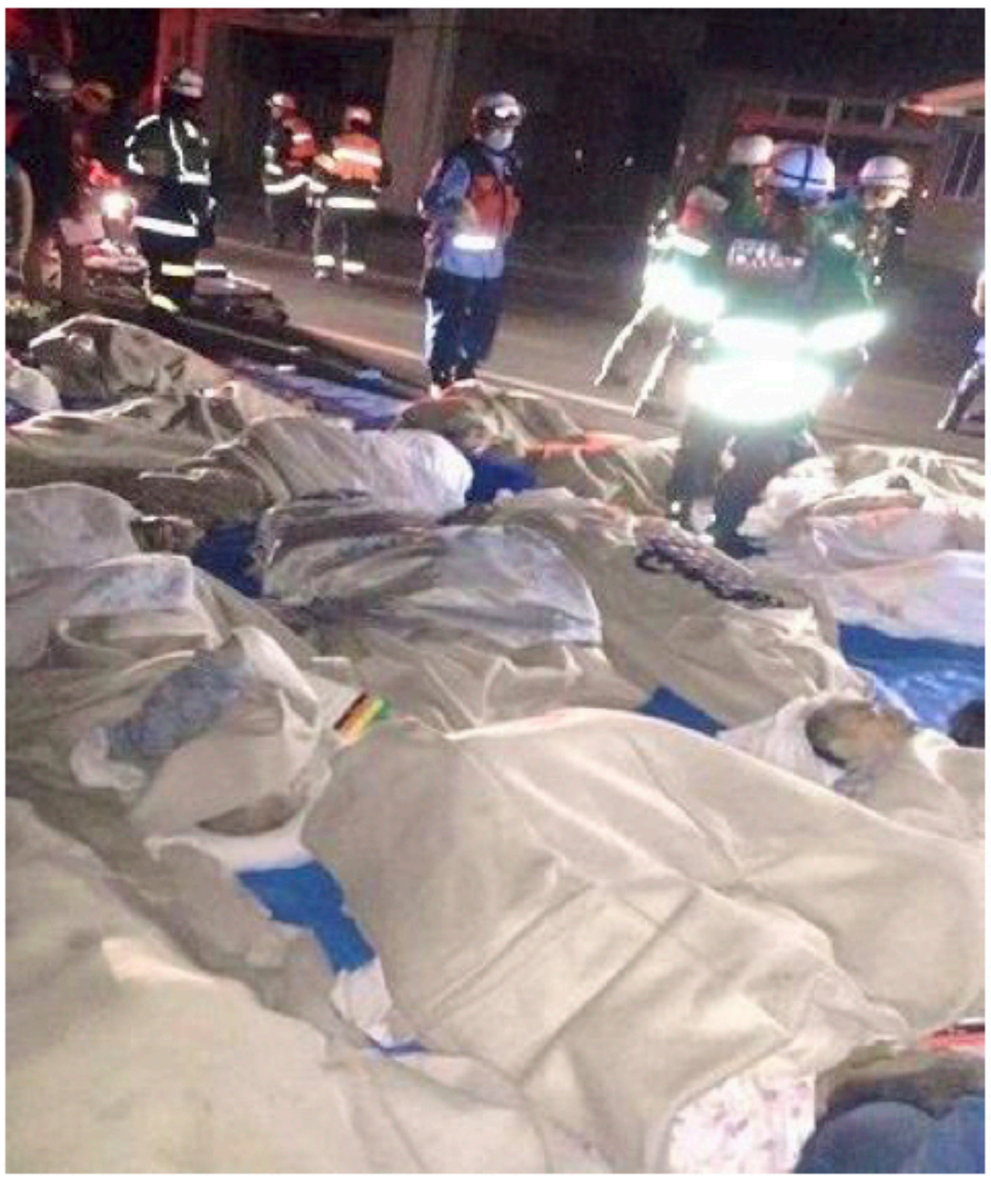
前震直後には車庫内の車両はすべて車輪止めを乗り越えて、下ろしてあった車庫のシャッターに激突していた。現場活動中も大きな余震が続き、車両が車輪止めを乗り越えて動きとても危険な状況だった。

◀救助工作車の接触事故

現場活動中に停車して歯止めまでしていた救助工作車2台が、地震により歯止めを乗り越え、そのまま接触事故を起こした。1台10t前後もの重量のある車両が、簡単に跳ね上がる規模の地震だったことがわかる。

◀連携活動

現場には、消防団、自衛隊、警察、ＤＭＡＴなど、全国各地からの様々な組織が活動していた。連携が上手く取れる場合ばかりではなく、時には活動がスムーズに進まない場面もあったようである。



▶東熊本病院

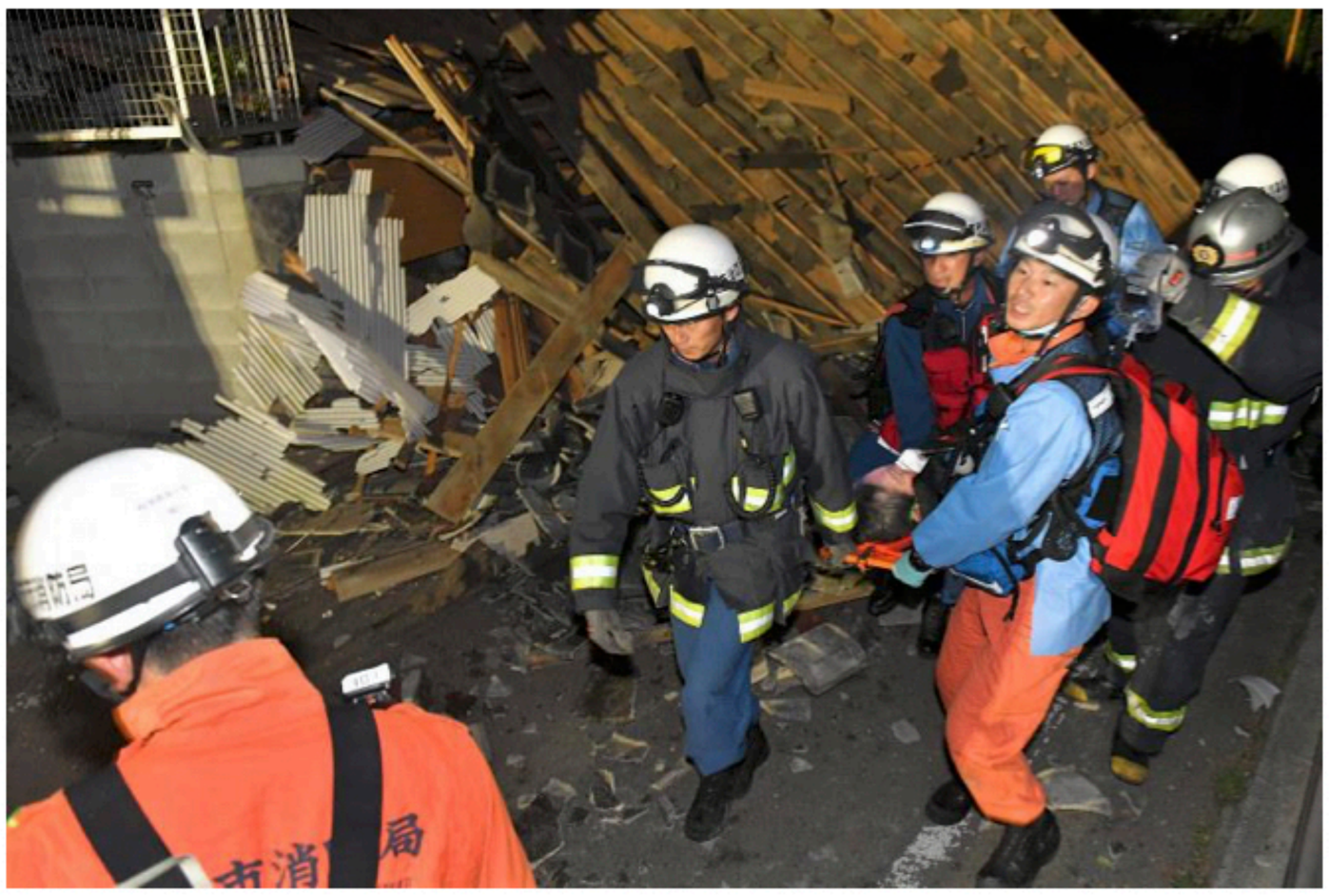
地震により病院の建物内に取り残された入院患者を建物の外に救出し、トリアージを行った。

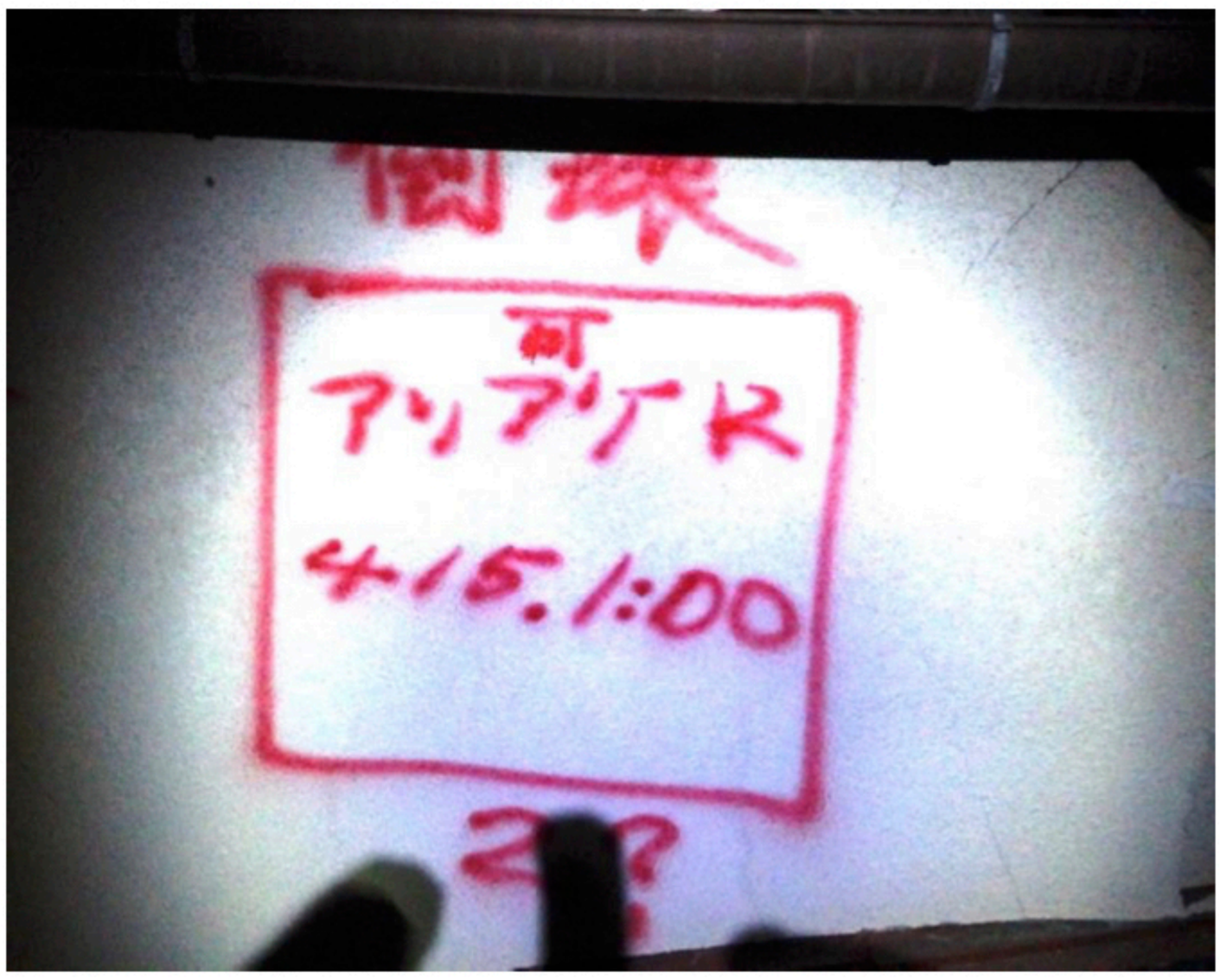
◀ローラー作戦

倒壊建物などに要救助者が取り残されていないか、管内の建物に漏れの無いようしらみつぶしに声掛けし、調べて回った。

▼救助活動

警察、自衛隊などの組織と協力して倒壊建物に閉じ込められた要救助者を救出した。






▶マーキング

建物の状況、隊名、アクセス時刻、要救助者なしや救出済みなどの情報を建物にスプレーで記入した。

▶車中泊

学校のグラウンドや駐車場には車中泊の車が大量に集まっており、自宅の前や幅の広い道路の路上にまで停まっていた。

長い車中泊生活でエコノミー症候群にかかる被災者も現れた。

▶ガスボンベ

地震によりガスボンベが倒れており、ガス漏れにより臭いがするといった通報が多く寄せられた。

▶倒壊建物からの怪煙

近隣住民などからの通報で、倒壊建物から煙が出ているという通報があり、熱画像で火災の危険を調べている。

この他にも、倒壊建物内の住宅用火災警報器が鳴動しているといった内容の通報も多く寄せられた。